[日-hitsuki-月]



[こぎいでな]





「石に漱がれホトトギス」

映像を通して故郷を見つめることは、自分は 何を考えながら生きてきたか、どのように人と 関わってきたかと自らに問うことでした。ま た、現代社会として持っている問題にも気づき ました。私が、いつまでも変わらない、変わっ てほしくない場所だと思っていても、ここも世 界の一部として呼吸し、変遷しているのです。 この故郷に対し、自身が学んできたことで貢献 できることは何か、そう考えて制作するように なりました。



私が制作する上で大切にしていることは、 「足を運ぶこと」「人と会うこと」「美しさを見つ けること」です。マルチメディア社会の中で必 要な情報はすぐに入手することができますが、 どんなにメディアが発達しても知ることがで きないものがあります。それは人の心です。映 像は、映されるものがあってはじめて成り立ち ます。目に見えない人の心を見えるかたちにす るためには、自分が何を見つめ、何を大切にし ているか、また映される側は、何を思い、何を

大切に思っている かを考え合わせる ことです。それは 足を運び、人に会 わないとわからな いのです。そして 人の心を通わせ、 ふるわせるもの は、やはり美しさ だと思います。そ の場所や人が本来



もっている美しさを見いだし、映像にすること が私の役目だと思っています。

「演出家の素養は、感動した瞬間を記憶するこ とだしこれも今野先生の指導です。日頃「美し い」と思った瞬間、心が揺れた瞬間、その要因 を、光の色、人の表情、ことば、時間、場所、音、 におい、温度など五感をつかい分析します。そ の記憶の蓄積がやがて昇華され、鮮明な映像と なってイメージされるようになります。

風になびく髪を気にしながら自転車をこぐ 高校生。談笑に夢中になって大笑いしながら危 なかっしく信号渡るおばちゃん。「映画できた らまた見に行くけんね」と言ってくれる友人。 帰省するたび増える甥っ子の写真。何もかも が、私にとってはドラマに見えます。これから も生きる喜びが湧き上がるようなドラマをつ くっていきたいです。

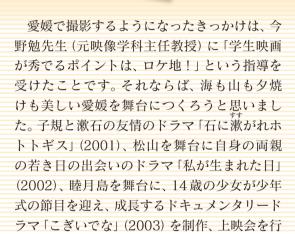
トークナウ **TALK NOW**

地域に根差した 映画づくり

武蔵野美術大学院博士課程 造形芸術専攻 環境形成研究(映像)

杉田このみ





「私が生まれた日」



軍の遺跡を舞台に、17歳の少年とその祖父が、時空を超えて亡き友人に邂逅するドラマ「日-hitsuki-月」の今夏上映に向けて編集中です。どの作品も、さまざまな方から真心の協力をいただき、たくさんの出会いと学びがありました。

1998年に武蔵野美術大学映像学科に進学 し、幅広い映像表現を学んできました。2000 年よりは、故郷愛媛を舞台にしたドラマの自主 制作を続けています。自ら企画を立て、取材し、 制作可能の規模を考えながら脚本を書きます。 同時に、友人や地元の学生に協力を呼び掛け、 スタッフ、役者を募ります。そこで集まった メンバーを「このみかんくるー (Konomi Can Crew)」と名付け、2週間程の撮影を行います。 ロケ地の撮影許可、スケジュール等さまざまな 交渉も自身で行います。撮影では、全体の演出 を考えながら役者に演技をつけ、カメラをまわ します。編集、音響をほどこし完成させたら、 上映活動を行います。資本は、アルバイト代を ほぼ全部つぎこみますが、やはり足りず、申し 訳ないことに、家族親戚に出資してきてもらい ました。そうして今までに10本のドラマ(う ち愛媛作品は5本)を制作してきました。

